

G-8 中学校技術・家庭科における教材と生徒のイメージとの関係—家庭機械
新潟関屋中学 大辻照美 新潟大和中学 諸形満喜子

(目的) 具体的に学習対象として選取され、組織された教材に対して、学習者がどのようなイメージをいだいているのか、男女の特性がイメージの傾向性にどのようにあらわれるのかを調査した。あわせて学習への関心の度合との関連を追求した。

(方法) Semantic differential 法により、対になつた形容詞19ヶを両極とした評定尺度上に評定させた。刺激は「機械」、「ミシン」、「自転車」の3つとし、中学2年男女388名が被験者である。

(結果) 刺激の種類によつて男女差がみられた。男子は自転車へのイメージが鮮明なのに対し、女子はミシンに対するイメージがはつきりしてゐた。一般に男子より女子のフロロフィルが右よりとなつた。イメージと学習への関心度との関連は、一般に関心度が高い者ほど左よりのフロロフィルとなり、関心度が低い者ほど右よりのフロロフィルとなつた。また、イメージと関心度の間には相関があり、たかに関心をもつている者ほどイメージをはつきり持つ、2つはこゝろがわかつた。教材の本質にかかわる因子よりも、感性因子の方に男女の差が顕著にあらわれた。これは関心が高い者と低い者とも思はれた傾向である。学習内容に汗するイメージは、感情的なものが多いか、かゝつてゐるといえる。